
ロデオボーイから落馬

yoshina

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ロデオボーイから落馬

【Nコード】

N2151D

【作者名】

yoshina

【あらすじ】

試しに一人称を「俺」にして、エッセイっぽいやつを書いてみた。

いい加減な前書き

とにかく何かを書きたいのだが、その「何か」があまりにもぼんやりとしすぎて書けない。

今書けるものって何だ。このぼんやりか。

そんなこんなでエッセイを書いてみようと思う。

いや、エッセイっちゅーより、今その時思ったことを書き留めておく。そんな感じだ。

ちなみに一人称は「俺」でいく。一応筆者は女なのだが、女特有の口調でエッセイを書こうとすると、どうも筆者の気持ちからかけ離れていく気がするのだ。

だからといって何故にそこで俺口調になるのかは自分でもよくわからないが、多分「俺」のほうがあっさりと読めそうだと思う。これはあくまで筆者の勘であり、何となくだ。そこに他意が全く無いことを注釈しておく。

女が俺口調で書くエッセイ。

気分はまるで逆・土佐日記。

アイアムチャレンジャー。

そこまで大したもんじゃないが、軽い気持ちで軽いノリでこのエッセイを始めます。

ところで、俺はロデオボーイから落馬したことも無ければ乗ったこともありません。

全て思いつきで書こうと思ったらタイトルまで思いつきになったのです。

……しかしロデオはやっぱり伏字かなんかしておいたほうがいいのだろうか。

「○デオボーイ」とか「R○D E○B○Y」とか。あんま意味無いな。

F F書いてる奴がいまさら何を言うかという話なんだが。

1 レース目…芸能人以外も歯が命

最近法歯学に関する本を読んだ。

身元が不明になった死体から歯を調べて、その歯の生え方や並び具合などから身元を割り出したりする時に使われる学問のことだ。よく事件モノで、

警察「焼死体に残った歯から……旦那さんのものと同じ治療痕が見つかりました」

奥さん「そ、そんな……！」

ああいう時にきつと法歯学なるものは活用されているんだと思う。多分。きっと。

俺はこういうことには疎いので大雑把にしか把握してないけど。間違ってたらごめん。

それで、だ。

俺がもし火事とかで焼け死んだら歯が調べられるのかもしれない。

刑事「警部！ 歯にりんごがはさまってます！」

警部「何い！？」

みたいな。

以前友人から、「事故って救急車で運ばれたりしたらさ、応急処置するために服脱がされるかもしれないでしょ？ その時安っぽい下着つけてたら嫌だから、どこに行くときでも一応ちゃんとした下着つけなきゃなーって思うんだ」と言われたことがある。

事故って救急車に乗せられて服脱がされる確率がどれくらいなの

かは知らないが、成程と思ったものだ。（救命士に気合の入った下着を見せても、それはそれで意味があるのかとも思ったが）

その下着の件と歯の件は、通じるところがありそうだ。

そして下着よりかは、歯を綺麗にするほうが簡単だろう。

最近親知らずのせいで奥歯付近が磨きにくくなってるのだが、努めて綺麗にしようと思う。

死ぬ時は歯も含めて綺麗な体で遺体。いや、いたい。

こんなことを考えてる俺は物騒なんだろうか、乙女ちっくなんだろうか。

ていうか、何で歯にりんごが挟まってるんだ。

2レース目…串カツはタレより塩派

今日忘年会に参加してきた。

居酒屋にて、総勢十名くらいでの飲み食いだ。

飲み食いにも人それぞれ色んなパターンがあるだろうが、俺の場合ビールとお冷を交互に飲む。

酔いはしないが、すぐに顔が赤くなるせいだ。

体質なのでこれはどうしようもない。俺の母もすぐに赤ら顔になるから、遺伝なのだろう。

それにしても、すぐに真っ赤になるのは何となく恥かしい。

お酒を飲まなかったら良いだけじゃないか、と思う人もいるかもしれない。

しかし、飲み会で

「ドリンク、どんどん注文しちゃって〜！」

「俺ビール〜」

「私カシスオレンジ」

「カルーア！」

「柚子チュ〜ハイ」

俺「じゃあ、ウーロン茶で」

一瞬、皆の視線がこちらに向く。（ような気がした）

成人の方々は、その時の空気を察してください＞（――）＜

お酒頼まないことは決して悪いことではない。

むしろ体にはそっちのほうが良いに決まってる。

しかし何だろう、この空気。

口ではノーと言わないくせに、オーラはノーと言っている。

これが日本なのか、そうなのか。

そういうわけで、とりあえずビールを頼むのだ。

三十分位したら次にお冷を頼んで、喉に流し込む。

これで一気にアルコール分が抜けるような気がする。

しかし赤い顔が見えにくい、照明が暗めの居酒屋であれば結構頼む。

飲み会の雰囲気やお酒自体は嫌いではないからだ。

ちなみに、お酒をセーブする分、食べるほうに専念することも多い。

大食いなので、皿に余った肴を引き受けることも間々ある。

端っこの席でビールをちびちび飲みつつ串カツを頬張り、友人のしゃべりに適当に相槌を打つ。

結構幸せだ。

若い女にしてはオヤジくさい趣向かもしれないが、幸せだ。

串カツの部分は軟骨のから揚げでもいい。揚げ豆腐でもいい。

このささやかな幸せをわかり合える人が、他にもいることを信じてる。

今日の忘年会も、そんな幸せを感じた上でお開きにすることが出来た。

良い気分で眠れるだろう。

解散する時にはそう思った。

が、帰りの駅で口直しに買ったコーヒーがその気分を六割くらい減らしてくれた。

真冬にアイス。

いや、俺絶対隣のホットのボタン押したって。

業者の入れ間違いか？

それともある意程度酔っていたんだろうか。

そんなことを考えつつ、今ぐだぐだとこれを書いている。

あ、コーヒーは何か悔しいのでその場で一気に飲みました。

3 レース目…死因・週刊少年ジャンプ

突然だが、ここでちょっと辺りを見回して欲しい。

ケータイで見てる人はもしかしたら電車内かもしれない。教室内かもしれない。

そういう人はごめんなさい。

てか、授業中ケータイいじったら駄目よ。

一方パソコンでこれを読んでる人は、自室にいる確率が高いだろう。

そういう人向けのネタを今回は書きます。

で、辺りを見回して何が見えただろうか。

俺の場合、目の前には本棚がある。

お世辞にもカタギとは言えない本がぎょうさん並んでいる。

少年ジャンプがある。

コミックスがある。（少年漫画9…1少女マンガ）

アルバムもある。

辞書もある。

なぜか空になったアイスワインのビンもある。

更に、一番上には故障したペンタブまである。（早く捨てろ）

そこで、俺は思う。

この状態で地震が来たら、どうなるだろうか。

きっと目の前の本棚がこちらに向かって倒れる。

漫画の冊数は三桁である。確実に自分が埋もれる自信がある。

「死因…少年ジャンプによる窒息死」とかシャレにならないが、そうなるかもしれない。

漫画や小説に埋もれるとは、ある意味本望か。

どうせなら和月先生や司馬先生の本に埋もれたいところだ。

その反面、この本棚を眺めていると、自分の人生見直そうかと思わないでもない。

少年漫画が九割九分9里占めるって女としてどうだ。

売ればそれなりの価格になりそうなものもあるが、だからこそ惜しくてそのままになっている。

来月引っ越すのに、これだけの本をどうしようかと。嗚呼。

ちなみに、本棚の側にパソコンがあって、その隣にベッドがある。寝ている間に地震が来たら、それでも俺は本に埋もれるだろう。一応、重い本は下段に仕舞っているから致命傷は負わないだろうが。

ああ、それでも大きな地震が来れば何が起こるかわからないか。阪神大震災の時（京都で震度五強）、テレビがありえない場所まで吹っ飛んだのだ。

震度七でも起こるなら、本棚どころか家そのものが倒れるかもしれない。

同じ質問を繰り返すが、これを読んでくださっている方の目の前には何が映っているだろう。

今、この場で地震が起こるなら何が降って来るだろう。

更に深く考えてしまうのなら、自分が不意の出来事で死ぬとき、その側には一体何があるのだろう。

「本棚の中身がありえねえ」とかギャグちつくにまとめるつもりだったのに、いつの間にかしんみりしてしまった。

そんなこんなで、今日も俺は本棚を目前にして、寝ようと思う。

4 レース目：白いみかんみたいなもの

ストレス発散、もしくは解消と聞けば皆さんはどんなものを想像するのだろうか。

よく聞くもので言えば、カラオケ、スポーツ、趣味に没頭、エトセトラ。

俺の場合、最近まではお酒だった。梅酒を一缶だけ飲む。ちなみに毎日ではなく週に一回程度だ。

甘酸っぱい匂いと頭を痺れさせるアルコール。

飲んだ瞬間は本当に気持ちが良い。ストレス発散と言うか、現実逃避に近いかもしれない。

だが、この方法には二つほど難点があった。

一つ目は、飲んだ次の日の朝だ。マジで寝起きが気持ち悪い。二日酔いとかそういうのとは少し違う。

何故だか、起きた時に後悔の念が押し寄せるのだ。自己嫌悪とも言う。

何に対する後悔なのかはわからないが、とにかく「嗚呼……」と頭を抱えなくなる。

二つ目は、お金。お酒飲むのには少なからずお金がいる。お酒買う額で卵が一パック買えるなと思うながら、レジに一缶持っていく心境は結構複雑だ。

で、最近もっと良い方法はないかと考えた。ストレスを何らかの形で自分の体内から出す方法だ。

スーパーで色々思考をめぐらせながら、陳列棚を眺めていたところ、見つけた。

お酒に替わるストレス発散方法を。

これならきつと自己嫌悪にはならないだろうし、無駄な金遣いでもない。体にも良い。

そう、それは

ニンニク

あのむわーっとした匂いがある何かストレスの具現化っぽい！ 大量のむわーつを吐き出すとなんかすっごい快感！

そう思いついたのだ。はいそこ、俺を白い目で見ない。

とにかく、夕食のおかずになんニク料理を作って食べることにした。

今日は時間が無かったので、坦坦麺にしたが、あれも中々のむわーっで、部屋の中で息吐きまくった。

うん、ホントに結構すかつとする。冷房で冷え切った体も温まり、夕飯だから生活費の一部と考えていいし。

今度餃子食べたい餃子。床がよくすべる餃子の王将。

暫くの間、俺のストレス発散はニンニクになるだろう。

かなり個人的な感覚と好みの方法だが、試そうと思う殊勝な方がおられれば念のために言っておく。

次の日が休みだった場合にチャレンジされることをお勧めすると。

ていうか、スーパーの陳列見ながら発散方法考えてる時点で、俺の頭の中食べ物ばかりだなおい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2151d/>

ロデオボーイから落馬

2010年10月15日13時53分発行